

各関係機関長
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成29年度農作物病害虫発生予察情報について

平成29年度農作物病害虫発生予報及び半月報を発表したので送付します。

平成29年度農作物病害虫発生予報第2号

平成29年5月16日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では, 発生圃場率が63.2%で, 平年(31.1%)に比べやや高いが, 本田生息虫数は1.9頭で, 平年(1.6頭)並の発生である。
- (2) 5月11日発表の1か月予報では, 天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間平年並か多いと見込まれており, 発生には助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し, 育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には, 薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので, 深水を避け, 根を健全に保つ。

II. 果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では, 春葉での発生圃場率が25.0%で, 平年(2.3%)に比べ高いが, 発病度は0.04で平年(0.02)並の発生である。
- (2) 5月11日発表の1か月予報では, 天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間平年並か多いと見込まれており, 発生には抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では落花期に薬剤防除を行う。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の温州みかん巡回調査では, 枯枝から黒点病菌が確認された圃場率は62.5%で, 枯枝中の α 型胞子数は $0.8\sim 8.4\times 10^5$ 個/gであった(前年: 黒点病菌確認圃場率が37.5%, 枯枝中の α 型胞子数が $4.9\sim 10.8\times 10^5$ 個/g)。
- (2) 5月11日発表の1か月予報では, 天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間平年並か多いと見込まれており,

発生には抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行い、その後1か月、または降水量200～250mm毎に防除を励行する。

かいよう病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が56.3%、発病度が0.5で、平年(50.1%, 0.3)並の発生である。
- (2) 5月11日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間平年並か多いと見込まれており、発生には抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行ない、常発園や罹病性品種園では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並～やや遅い

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生は5月15日時点で確認していない(平年:5月16日, 前年:5月15日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、IGR剤の場合、発生確認の10～15日後、有機リン剤の場合、35～40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が56.3%、寄生葉率が13.3%で、平年(39.7%, 6.5%)に比べやや高い。
- (2) 5月11日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間平年並か多いと見込まれており、発生には助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率が12.5%で、平年(5.2%)に比べやや高いが、発病葉率は0.1%、発病果率は0.0%と、平年(0.1%, 0.0%)並の発生である。
- (2) 5月11日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間平年並か多いと見込まれており、発生には抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 摘果期に薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率が37.5%で、平年(49.8%)並の発生であるが、寄生新梢率は1.5%と、平年(4.7%)に比べやや低い。
- (2) 5月11日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間平年並か多いと見込まれており、発生には助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
 - (2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、葉液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
 - (3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年より遅い)
発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 今春の予察灯調査においては、勝浦町では平年(4月25日)より1日早い4月24日に、上板町では平年(4月25日)より2日早い4月23日に初誘殺(ツヤアオカメムシ)を確認した。
- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、7地点で越冬を確認、越冬成虫は2.5頭/m²であり、平年(越冬成虫数は1.4頭/m²)に比べやや多く、前年(調査地点数は11地点×2か所、成虫確認地点数は6地点、越冬成虫数は0.4頭/m²)に比べ高い越冬密度であった。
- (3) 5月11日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間平年並か多いと見込まれており、発生には助長的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平年	2017年	2016年	2015年	2014年	平年
4.1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
4.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.4	0	0	8	0	1	0	2	0	0	0
4.5	1	1	4	0	1	3	3	0	0	2
4.6	1	5	33	10	6	11	6	27	35	10
5.1	12	12	188	28	36	72	3	34	50	18
5.2	9	3	180	28	53	61	10	37	19	25
5.3		13	380	96	60		5	43	216	37
5.4		4	27	104	108		2	27	76	33
5.5		2	94	132	52		0	17	103	39
5.6		4	29	222	64		1	33	249	39
6.1		0	69	154	39		0	34	116	21

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平年	2017年	2016年	2015年	2014年	平年
4.1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
4.2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
4.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.4	0	1	2	0	0	0	3	0	0	0
4.5	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1
4.6	9	0	13	2	2	0	3	9	0	2
5.1	10	3	225	12	7	6	0	38	2	6
5.2	10	0	61	4	8	11	3	10	3	14
5.3		2	35	34	13		1	18	19	18
5.4		0	154	40	18		1	8	56	12
5.5		3	26	50	21		0	6	33	10
5.6		0	44	107	13		0	46	52	14
6.1		0	7	42	11		3	38	30	9

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ, キリ等)から成虫が飛来するので, 園内を巡回し, 飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

野菜類共通(特に夏秋ナス)

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月2半旬にフェロモントラップの誘殺数が増加し, 平年の約3.4倍, 前年の約2.3倍の10頭(7地点平均値)誘殺された(図1)。
- (2) 5月11日発表の1か月予報では, 天気は数日の周期で変わるが平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間平年並か多いと見込まれており, 発生には助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本年の発生消長は, 2014年の発生消長と似ており, 今後6月に再びピークを迎えると考えられる。2014年は, 夏秋ナスで幼虫による被害果も発生している(図2)。
- (2) 被害部位や茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるので, 圃場外に持ち出し, 適切に処分する。
- (3) 果実や茎, 花蕾に侵入した幼虫や, 発育が進んだ幼虫に対しては, 薬効が著しく低下するため, 若齢幼虫主体の時期を狙って薬剤散布を行う。

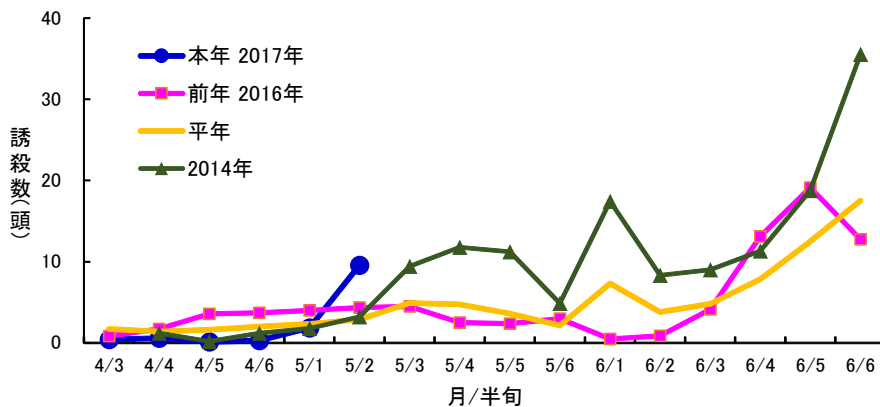


図1 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移
※阿波市、三好市、東みよし町、石井町の7地点平均



図2 夏秋ナスを加害するオオタバコガ幼虫と食害痕

Ⅳ. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し, 周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは, 7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度: 甚>多>中>少>無

発生量: 多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。